

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容等をファシリテーター及び事務局がまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

勉強会＜合同＞第7回（10/19）開催概要

10月19日（土）に勉強会＜合同＞第7回が開催され、沼津駅周辺地区及び原地区から39名のメンバー（うち、代理人3名）が参加しました。冒頭、PIは高架化や貨物駅移転等について意思決定する場ではなく、他の人の意見を聞きながら資料に基づき前向きに議論する場である等、PIの趣旨を事務局が確認しました。

中立的な第三者であるファシリテーターに運営が一任され検討が進められました。当日の目的は、代替案の比較評価と選定に向けた考え方の確認、「勉強会とりまとめ」の取り扱いや内容の検討、勉強会を振り返った参加者からの意見発表の3つとされました。

まず、事務局から、経済分野から新たに技術検討アドバイザーが加わったことと、各アドバイザーからの助言・対応状況について報告がありました。続いて、代替案の選定に向けた考え方については、まず9月23日の第11回PI委員会からの指摘事項として、これまでの多角的な議論を踏まえると誰もが満足する一つの案に絞るのは難しいこと、ただこれまで詳細に比較評価してきた7つの代替案では多すぎるため複数案に絞り込むべきこと、複数案に絞り込んだ後のプロセスが重要、との論点が紹介されました。これらPI委員会からの指摘や勉強会・車座談議等の意見を踏まえ、選定に向けた考え方が事務局から提案されました。原地区における整備の範囲を貨物駅予定地だけに限定する（原C案）のではなく、原地区全体が一体となってそのポテンシャルを生かしていく必要があることが共通認識となっているとし、原C案を組み合わせた代替案を除く代替案2、4、9、10の4案に絞り込む提案がされました。続いて、勉強会参加者の共通認識をまとめたいとの参加者の声を受け作成された「今後の地域づくりの進め方について（勉強会とりまとめ（修正案）」がファシリテーターから提案されました。勉強会を通じてそれぞれの立場から地域づくりについて話し合いが出来たこと自体が貴重であり、複数の代替案を残している状況であるからこそ、どのような意思決定がされた場合であっても今後の地域づくりを進める上で配慮されるべき事項を整理し県に伝えることが重要として、早急な意思決定や地域づくりの具体化、市財政への配慮、市民参加の継続などポイントを絞って提案されました。

グループ検討では、まず、代替案を事務局の整理した4案に絞り込むことについて概ね了解されました。ただ、今後の地域づくりに向けたより具体的な検討の必要性が指摘されました。

「勉強会とりまとめ」については、今後のプロセスに関する配慮事項を勉強会から県知事に対し発信する必要性が共有されました。内容についても概ね了解されましたが、特に、意思決定の時期の遅れが懸念されることとして、意思決定の期限を設けたり、事業が停滞する現状で実際に問題が生じていることに触れた記載とする等の提案が出されました。

最後に、参加者一人ずつから勉強会の感想や選定に向けた期待が述べられました。勉強会は様々な意見を述べ、聞き、知ることができた市民参加の貴重な場であり、勉強会の設置と事務局の中立的な運営に感謝が述べられました。また、将来に向けて沼津駅周辺地区や原地区のインフラを整備し民間投資を引き出す考え方や市財政への負担を抑えながら活性化を目指す考え方とともに各代替案への期待が示されましたが、共通して迅速な意思決定が要望されました。

PI委員会石田委員長から勉強会への感想が述べられました。参加者の意見発表は、PI委員会から知事への提言に盛り込むべき内容に対するヒントを多く含む重要なものであったと評価がありました。また、事務局の県職員が勉強会の各グループに緊張して参加した様子から、市民が行政を変えていく様子を見たとの感想が述べられました。

さらに、静岡県交通基盤部長島部長から、勉強会では様々な角度から議論がなされ代替案が絞り込まれたとして、参加者への感謝が述べられました。

これをもって、沼津高架PIプロジェクトの最終回の勉強会は閉会となりました。当日の勉強会の後、PIプロジェクト推進本部が案を選定し、次回PI委員会を経て、知事に結果を報告する予定となっています。